
教育総合センター だより

NO. 115

平成 22. 3. 1

「出会い、そして学び」

尼崎市教育委員会
教育次長 芝林 昇



センターだよりの執筆依頼を受けて、何を書こうかと考えましたが、ドラマのように劇的な私自身の経験ありませんので、仕事を通じて、すなわち市役所に勤める中で人や出来事に出会い、そうしたこと通じて、いろいろと感じたり、学んだこと、そのことにより自分が失敗や成長してきた事例を振り返ってみたいと思います。

30数年前、市役所で先ず勤めた職場は公害健康補償課で、大気汚染による公害病患者の認定・補償・救済等の事務を行っていました。当時は、補償等の法律が制定されて間なしでしたので、患者の認定作業や事務処理の環境整備等々に連日、夜遅くまで忙殺されていました。そうした中でしたが、私は、新採職員で戦力となる前でしたので、市役所の仕事のやり方や業務、すなわち公務であるから公平、公正で間違いは許されないといったことから、きっちり法律等の根拠を勉強しておくように教えてもらい、その経験が後々の仕事の進め方に大いに役に立ちました。

(係長時代) 上司が話されたことで記憶に残っていることがあります。その方は、非常に家族思いで、家族を大切にされておられ、部下に対してもわが子と同じ心で接することが基本であると言われました。当時、部下はいませんでしたのでそうかなーと思った程度でした。その後、家族や部下ができて、いろいろと体験していくと責任ということが非常に大切なことであると思われ

てきました。個人に対してもまた全員に対しても責任があり、幸せにしなければならないということは家族、職場も一緒であると思います。

(課長時代) 上司から市の負債解消という大きな課題が与えられ、私はとても無理なことであると思って、気が乗らないままに日が過ぎていきました。しかし、結論を出す時期が近づいてきて、とにかく当たって砕けろと上司に叱咤激励され、必死で取り組みました。それに取り組んだことが今の私に繋がっていると感じ、そうした事柄の巡り合わせに人生の岐路といったことを感じたりもしています。

(室長時代) 企画と財政部門を有した職場でしたので、国県の職員、大学の先生、企業の方等々、様々な分野の方を知る機会がありました。国の若手官僚は自分が国の政策を体現しているといった強いオーラを感じましたし、大学の先生には多元的なものの見方を学びましたし、企業の方からは経営に対する一瞬の判断の奥深さや責任といったこと等、とても良い経験をしました。

これまでの出会いを振り返ってみますと、こうしたこと以外にも実に様々なことがあったなーと思います。出会いが自分自身の成長の糧であり、記録でもあると思います。教育委員会はこれまで経験したことのない分野ですので、これからもたくさんのお出合いを期待していますので、どうかよろしく願いいたします。

☆☆☆近畿地区教育研究(修)所連盟研究発表大会に参加して☆☆☆

1 近畿各地域より参加

近畿各府県及び各市の教育センター・教育研究(修)所関係の職員や現場教員、128人の参加のもと、平成21年11月11日(水)、大阪府教育センターにおいて表題の大会が開催されました。

国立教育政策研究所教育課程調査官等のご挨拶から始まり、大阪大学理事・副学長(教育・情報担当 附属図書館長兼任)小泉潤二氏のご講演、近畿各地域による16の研究発表と続き、どれも充実した内容でした。

2 グローバル化時代の人たちのための教育

大阪大学の小泉氏は、同大学院人間科学研究科教授もされている人類学博士です。さらには、人類学民族科学国際連合事務総長や人類学会世界協議会前会長など、まさにグローバルに活躍されている方です。

ご講演は、「グローバル化が急速に進む中で、現在の大学生、またそれより若い世代の人たちは、今ある状況とは大きく異なる時代や社会を生きることになる。そのような人たちに対する教育はどうあるべきか、単純で明快な答えはないし、あるべきではない…」という結論から始まりました。現代世界は多様であるとともに急速に変容しつつある(流動化が進んでいる)こと、その多様な世界に生きる人々の可能性も多様である(同じ可能性を持っている人は一人としていない)こと、そうした可能性の中で、それぞれが進む道を考えることが重要であることを、『多様性の重要性(diversity)』とまとめ、単純な言語教育だけではだめであるという点を指摘されました。これは、新学習指導要領移行期1年目である今年度から、小学校に新しく設けられた外国語活動について一定の方向性を示していただいたものだと感じました。

3 尼崎市の実践(研究発表)

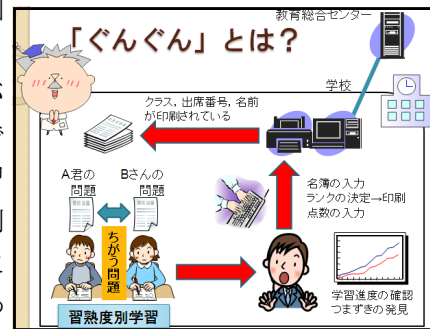
尼崎市からは教育総合センター小学校情報教育研究部会、杭瀬小学校の久下愛美教諭が代表として「ぐんぐんのびる個別ドリルシステムの効果的な活用について」、平成19年度から20年度にかけて取り組んだ2年間の研究について発表を行いました。

「ぐんぐん」は、一人ひとり違った問題の個別プリントが印刷でき、習熟度別学習に役立つ

個別プリントが印刷でき、習熟度別学習に役立つ

尼崎市独自のシステムです。

2年目の研究で、「ぐんぐん」を使用した学級と使用しない学級での比較調査を実施し、特に、成績下位群に「ぐんぐん」未使用学級との差が使用効果として現れたことが述べられました。「ぐんぐん」の機能の1つである「学習履歴」の活用によって、個々の児童のつまづきがすぐに具体的にわかり、的確な個別指導が実施できたということでした。質疑応答時、この結果は統計結果としては母数が少ないのではないかと指摘を受けましたが成績下位群となるとどうしても少なくなるので、仕方のない部分でもありました。一方では、繰り返し学習させることができるこの個別ドリルシステムにはとても魅力があり自分の地域でも導入したいというご意見もありました。画面ドリルやフラッシュカードの機能もありますので、本市の先生方にはどんどん活用していただきたいと願っています。



(情報教育担当指導主事 大濱 洋治)

☆☆☆ 特別支援教育の現状と方向性 ☆☆☆

1 特別支援教育への動き

平成19年4月より、従来の障害児教育（特殊教育）の概念が大きく転換し、特別支援教育が本格実施されてから今年度で3年を迎えることになった。従来の障害児教育の対象になっていた子どもだけでなく、通常の学級に在籍するLD（学習障害）、ADHD（注意欠陥多動性障害）、高機能自閉症等の発達障害のある子どもに対して適切な指導や必要な支援を行っていくことで、特別支援教育というものを共通理解していくことが重要である。一人ひとりの教育的ニーズを把握して、持てる力を高め、生活面や学習面での困難を改善、克服するために教育的支援を行うことで、成長や自立が望める。

兵庫県において、平成18年3月に障害児教育の在り方検討委員会より「本県の障害児教育の現状と今後の在り方」が提言され、平成19年3月に「兵庫県特別支援教育推進計画」が策定され、23年度までの5カ年で取り組む方策が提示された。

2 尼崎市の特別支援教育の現状

平成21年度は、小学校97学級、中学校31学級の特別支援学級が設置され、それぞれ258人、91人の児童生徒が在籍しており、この10年間で、特別支援学級在籍者は1.4倍に増加している。そのうち肢体不自由学級の学級数は2.6倍、在籍者数は3.2倍に増加している。幼稚園18園のうち、6園に特設学級が設置され、33人の園児が在籍している。特別支援教育のセンター的役割を担っている尼崎養護学校において、児童生徒は51人在籍している。また、通常の学級において約6.3%（H14年度文部科学省調査による）の発達障害の児童生徒が在籍している状況で、

学校園では校長がリーダーシップを発揮し、特別支援教育コーディネーターを中心として、校内委員会が有効に機能するように校内支援体制を整備し、一人ひとりの幼児児童生徒の教育的ニーズに応じた指導、支援を行っているところである。通常の学級に在籍する発達障害の幼児児童生徒に対して、20人の心の教育特別支援員が45校園に配置され、学習面、行動面において支援しており、一定の成果をあげている。就学指導においては学校や関係機関との連携を図り、保護者の意見を聴取しながら適正な就学を推進している。

3 特別支援教育の方向性

障害のある子どもへの指導や支援について、校内委員会において支援の方法や内容等を検討し、教職員の共通理解を図り、障害の重度・重複化、多様化に対応できるように、個別の指導計画を作成し、その指導にあたっていく。また、教職員が専門的な立場からの必要な助言を得るために、「ひょうご専門家チーム」や尼崎養護学校、阪神特別支援学校、教育相談担当による巡回相談（巡回支援）をさらに活用していく。特別支援教育をより一層推進していくためには、特別支援教育の理念や考え方を全教職員が共有するとともに、特別支援教育コーディネーターや特別支援学級担任等のニーズに対応した専門性を向上させるための研修を実施する。

最後に尼崎市として、教育と医療、福祉、労働等の関係機関と連携する一方で、近隣の市町との情報交換を密にし、連携を深め、今後の特別支援教育の推進を図っていきたい。

（特別支援教育担当係長 福田 肇）

《教育情報コーナー 資料紹介》



平成20年6月に衆参両院で、2010年を『国民読書年』とすることが全会一致で採択されました。決議の中には「活字離れ、読書離れが進み、読解力や言語力の衰退が我が国の精神文明の変質と社会の劣化を誘引する大きな要因の一つとなりつつある」とあります。この認識の上に、『国民読書年』を制定し、国を挙げて読書活動を推進しようというものです。情報コーナーの蔵書の中から読書の本をいくつか紹介します。

※ アニメーションやブックトークなどのさまざまな活動を通して読書の楽しさを。

- ・授業が生きるブックトーク～小学校1年～6年生 (一声社・ブックトーク研究会編)
- ・小学校全体で取り組む「読書活動」プラン (明治図書・府川 源一郎編著)
- ・子どもと楽しく遊ぼう読書へのアニメーション (学事出版・黒木 秀子著)
- ・読書で遊ぼうアニメーション～本が大好きになる25のゲーム (柏書房・Mサルト著)
- ・実践アニメーション子どもが必ず本好きになる16の方法 (有元 秀文・合同出版)
- ・読書生活者を育てる～中学校の読書活動 (安居 総子・東洋館出版社)
- ・ブックウォークで子どもが変わる (明治図書・井上 一郎著)
- ・感性を磨く「読み聞かせ」 (北大路書房・笹倉 剛著)

※ 子どもたちの年齢に合わせて、本を紹介。

- ・えほんのせかい こどものせかい (日本エディタースクール・松岡享子著)
- ・どの本よもうかな?1・2年生、3・4年生、5・6年生 (国土社・日本子どもの本研究会編)
- ・どの本よもうかな?中学生版日本編、海外編 (国土社・日本子どもの本研究会編)
- ・12歳からの読書案内 (すばる舎・金原 瑞人編)
- ・フィンランドメソッドで本が好きになる100冊読書日記 (経済界・北川 達夫編)

※ 「子どもと読書」について考えてみましょう。

- ・お話を子どもに (日本エディタースクール・松岡 享子著)
- ・心の扉をひらく本との出会い (北大路書房・笹倉 剛著)
- ・子どもの未来をひらく自由読書 (北大路書房・笹倉 剛著)
- ・読書力 (岩波書店・斎藤 孝著)

開館時間ご案内

平日 午前9時 ～ 午後9時

《ただし、教育相談および視聴覚ライブラリーは午後5時15分とします》

なお、次の日は取り扱いいたしません。【土曜日・日曜日・祝日・年末年始】

発行 尼崎市立教育総合センター

尼崎市三反田町1丁目1番1号 (TEL.06-6423-3400)

発行者 平垣 新一

題字 尼崎市教育委員 岡本 元興